

自分を愛して他人を愛します。

やさしさと笑顔を絶やせず、

他人の悪口は決していけません。

長所を誉めるように努めます

人は他人に認められたいという基本的欲求がある。立派なことをするのも、良い事を言うのも、時として悪いことをするのも「他人に認められたい」という基本的欲求」の現れである。

これが、人が人間たる由縁である。人は一人では生きてゆけないのであり、人々の間で生きていくわけである、だから人間なのである。人と人のかかわりで生きていくからこそ、他から認められたいのである。

大小は別にして、どうしても自己の存在感を主張しようとする、これは人間の本性である。この本性を傷つけてはいけない。この本性を素直に認めてやらなければならない。私自身にもこの本性がある。この自分の本性を満たしてやらなければならない。このことを一人さんは、先ず「自分を愛して」を真つ先にもってきて表現されています。先ず、自分の自己重要感をみだし、次に他人の自己重要感も満たしてあげる。自己犠牲的「愛」も立派であるが、よほどの福德円満家でなければ長続きしないものであります。一人さん流の無理をせず、自分も苦しくなく、「楽で幸せ」の精神で、少しずつ魂のステージを上げていく、というのがその趣旨だろうと思います。

脳は他人に言ってる言葉と、自分に言ってる言葉を区別しないそうです。他人への悪口も、自分への悪口も、同じ言葉として受け取るとるんだそうです。「いい言葉」、「幸せになる言葉」を繰り返し繰り返し言う事は、「これは「脳」に繰り返し繰り返し聞かせていることにはなりません。

人間の行動は、深層意識、潜在意識、表面意識と密接な関係があります。行動は、深層意識、潜在意識、表面意識の表現だといっても過言ではありません。通常は表面意識で暮らしておりますが、何かを決定する、決断する、行動を起こす、ヒラメク、思いつくといった、重要な局面では、深層意識、潜在意識が働いています。繰り返し繰り返し言葉を発すると、この言葉が、表面意識を通り過ぎて深層意識、潜在意識にインプットされます。インプットされると、何かをきっかけとして潜在意識、真相意識が動き始め、具体的な行動を起こすよう働きかけを強めるわけです。貧乏臭い言葉ばかりをインプットしていると貧乏になるような選択を続けるわけです。悪い言葉ばかりインプットしていると、悪い事ばかり選択し続け、いつのまにか悪人、社会に迷惑をかける人になっているわけです。逆に、いい言葉をインプットし続けると、良い事ばかりを選択しつづけ、幸せな人、豊かな人、福德円満な人、信頼される人、やさしい人になっていけるわけです。これには際限が無く、いくらでもやさしくなれますし、神や仏にもなれるといわれています。脳はインプット時に善悪を判断しません。何でもインプットしてしまいます。他人の悪口を言う事は、それは自分の潜在意識や深層意識へ、悪い言葉をインプットしていることにほかなりません。人への悪口はやめて、人の良いところを褒めてあげれば、いい言葉をインプットすることとなり、自分のためになるわけです。